

I'm home

いつも、家族と一緒にいた。

特別仲がいいというわけでもないけれど、家にいると、気づけばリビングに家族みんな揃っている。

それが当たり前だと思っていた。

でも、年月が過ぎるとともに、だんだんと家族の形は変わっていく。

一緒にいても、どことなく気恥ずかしくて、家族との会話は少しずつ減っていく。

そして進学や就職で離れ離れの生活。

私も家を出て一人暮らしをすることになり、家を出てからというもの、家族みんな揃うこともなくなった。

“一人”はとても新鮮だった。自由だった。最初は少し寂しかったけれど、新生活は忙しくて、でも楽しくて…

いつの頃からか、

寂しくて自分から母に掛けていた電話もなくなっていった。

友達と一緒にいれば、寂しさなんて感じることはなかったから。

それでもやっぱり、自宅に帰れば狭いワンルームに一人ぼっち。

静かな自分の部屋に一人佇むと、ふと思い出すのは家族の笑顔と笑い声。

「帰ろう」

寂しい…会いたい…

そんな気持ちを感じる間もなく、まるで磁石に引き付けられるかのように、気がつくと家族の元に向かっていた。

電車の車窓から見えるのは、代り映えのしない風景。

そして、着いた先に見たのは

昔と変わらない家族の温もり。

変わっていたのは自分だけだったのかもしれない。

家のリビングでは、離れた時間なんてなかったかのように、家族全員揃って笑っている。

示し合わせたわけでもないのに、離れて暮らす兄弟もそこにいた。

私たちを引き付ける何かがあったんだ。

昔と同じように、私は言った。

「ただいま」

返ってくるのは

「おかえり」

の一言。

毎日当たり前のように言っていたはずの言葉。

久しぶりに言った、久しぶりに聞いた、

家族のやり取り。

こんなに優しい言葉だったんだ。

こんなに温かい言葉だったんだ。

ここが、私の帰る場所。

離れていても心はいつも傍にある。

家を出るその時、

家族の、少し寂しそうな

「行ってらっしゃい」の声に振り向いて

私は笑顔でこう言った。

「行ってきますす！」

また、「ただいま」と言えるその日まで…

頑張るよ。